

精神的ストレスが関与する脱毛症に漢方治療が有効であった症例



芝木 光 先生

中根皮膚科医院

1993年 旭川医科大学医学部 卒業、同皮膚科学講座 入局
 1994年～北見赤十字病院、札幌東徳洲会病院、旭川厚生病院、旭川医科大学病院にて勤務
 2012年 中根皮膚科医院 院長
 2018年 中根皮膚科医院 理事長・院長

はじめに

びまん性脱毛症(休止期脱毛症)・円形脱毛症は、いずれもストレスが発症の引き金になりうる。容貌の変化により多大な精神的苦痛を伴うにもかかわらず有効な治療法がないため患者は失望し、さらなるストレスを抱えることで悪循環を生じ、脱毛症を難治化させる可能性がある。

症例 1

症 例：47歳 女性。

主 訴：頭部の脱毛。

現病歴：初診の1～2ヵ月前から頭部の脱毛が徐々に増悪し、近医皮膚科を受診したが、治療法がないといわれ経過をみていた。しかし、その後も脱毛が続くため、X年1月5日に当院を受診した。X-1年9月頃から家庭内・仕事上のストレスがあるとのことであった。

現 症：頭全体に疎毛、軟毛化を認めた。牽引試験で棍棒状の休止期毛が少数抜けた。

診 断：びまん性脱毛症(休止期脱毛症)。

所見／東洋医学的所見および自覚症状：図1に示す。

治 療：加味帰脾湯エキス満量/日(分3)、フェキソフェナジン塩酸塩、カルプロニウム塩化物水和物ローションの処方を開始した。

臨床経過：1月19日の再診時に脱毛の減少、食欲不振・不眠の若干の改善がみられ、2月16日には脱毛、自覚症状とともに改善し、3月16日には毛髪の再生を認めた(図2)。

図1 症例1 47歳 女性

主 訴

頭部の脱毛。

身体所見

身長 160cm、体重 55kg、BMI 21.8

血液検査所見

抗核抗体陰性、FT4正常値、TSH正常値、Hb 11.0g/dL

東洋医学的所見

顔色が悪く、くすんだ印象。

舌診：淡紅色でやや胖大舌、薄白苔。

脈診：沈 細。

腹診：腹力やや軟弱、軽度の心下痞硬、軽度の胸脇苦満あり。

自覚症状

心配ごとのため眠りが浅い。⇒ 心血虚

脱毛がおさまるかとても不安。

就寝中に目が覚めているいろいろ考えると体がほてって眠れなくなる。⇒ 肝火旺

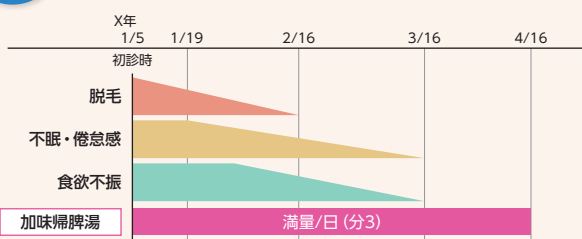
全身倦怠感・食欲不振あり。⇒ 脾気虚

月経は問題なし。冷え症の自覚なし。

治 療

加味帰脾湯エキス満量/日(分3)、フェキソフェナジン塩酸塩、カルプロニウム塩化物水和物ローションの処方を開始した。

図2 臨床経過(症例1)



体調は良好に維持されていたため、患者の希望により1ヵ月間の継続服用後に廃薬とした。

症例 2

症 例：52歳 男性。

主 訴：頭部の脱毛斑。

現病歴：初診(X年11月17日)の約1ヵ月前から後頭部に脱毛斑が出現したため当院を受診した。約半年前から家庭内・仕事上のストレスがあるとのことであった。数ヵ月前から耳鳴があり、耳鼻咽喉科で処方されたニコチン酸アミド・パパベリン塩酸塩配合剤と半夏厚朴湯を服用していた。

現 症：後頭部に母指頭大、円形の脱毛斑を認め、牽引テストで脱毛斑周囲の易抜毛性があった。ダーモスコピーで黒点を認めた。

診 断：円形脱毛症。

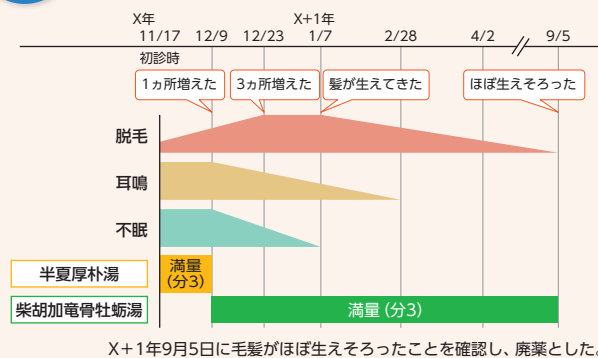
所見／東洋医学的所見および自覚症状：図3に示す。

治 療：2週間後に初診時の処方が無効のため、証を再考し柴胡加竜骨牡蛎湯エキス満量/日(分3)の処方を開始した。

臨床経過：柴胡加竜骨牡蛎湯への変方約2週間後(12月23日)に脱毛斑がさらに増えたが、耳鳴と不眠の改善がみられた。X+1年1月7日には脱毛斑は増えておらず、最初に脱毛した箇所には発毛を認めた。2月28日には耳鳴と不眠が改善

し、体調がよいとのことであった。4月2日には全体に硬毛の発毛を認め、以後順調に回復し、9月5日にはほぼ生えそろったことを確認して廃薬とした(図4)。

図4 臨床経過(症例2)



考 察

加味帰脾湯は、心脾両虚・虚熱を目標に用いられる方剤である。症例1は、全身倦怠感・食欲不振を脾気虚、不安・不眠・抑うつ・脱毛を血虚、体のほてりを虚熱ととらえた。本症例は脱毛が不安の一因であったが、加味帰脾湯の服用で脱毛があまり気にならなくなり、不眠が解消し、体調も回復した。

柴胡加竜骨牡蛎湯は、実証の気うつ・気逆を目標に、過緊張・神経過敏の傾向のある患者に使用される方剤である。症例2では気うつ・気逆の症状を認めたため、本方剤を選択した。ストレスにより引き起こされた諸症状の改善が脱毛症状の改善につながった。

ま と め

全身の観察から漢方薬が目標とできる症状を見つけだし、これらを緩和させることで患者の回復力を高め、精神を安定させ、結果として脱毛を治すという本治療法の考えに則って方剤を使用し有効であった2症例を経験した。

図3 症例2 52歳 男性

主 訴

頭部の脱毛斑。

身体所見

身長 174cm、体重 65kg、BMI 21.5

東洋医学的所見

体格は中肉中背で、はきはきと話す。

舌診：淡紅色、舌尖赤く、白苔あり。

脈診：沈実。

腹診：腹力充実、胸脇苦満あり。

自覚症状

半年ほど前からストレスがあり不眠傾向。

気分がすぐれない。

仕事でイライラすることが多い。⇒ 心肝火旺

治 療

● 初診時、耳鼻咽喉科処方の半夏厚朴湯エキス満量/日(分3)を継続とし、フェキソフェナジン塩酸塩の内服とステロイド外用剤を処方した。

● 2週間後、脱毛斑が1ヵ所増え、耳鳴も改善しないことから、証を再考し柴胡加竜骨牡蛎湯エキス満量/日(分3)の処方を開始した。

Discussion

木村：症例1は加味帰脾湯が有効でしたが、加味逍遙散との鑑別についてはいかがですか。

芝木：イライラ・ストレスのある方には加味逍遙散、不安感が強く、気虚の程度が強い場合には加味帰脾湯を選択します。

木村：症例2では、半夏厚朴湯ではなく柴朴湯の選択も考えられると思います。

芝木：本症例は胸脇苦満があり柴胡剤が、気うつ症状だけでなく神経過敏症状が強いため竜骨・牡蛎が必要と考えました。

木村：他に脱毛症に頻用される処方を教えてください。

芝木：血虚がより強い場合には十全大補湯などを用います。

木村：漢方治療を併用したメリットについて、先生はどのような印象がありますか。

芝木：精神的な要素が大きい方や全身的な不調を伴う方に漢方薬を併用すると、治療効果は高い印象があります。